

MySQL 5.1.56 リリースノート（日本語翻訳）

機能の追加または変更:

- [`mysqldump --xml`](#) は現在、カラム定義からのコメントを表示する (Bug #13618、Bug #11745324)。

修正されたバグ:

- **InnoDB ストレージエンジン**: [InnoDB](#) は、クエリ計画の "rows examined" に対して、予期されるものより大きい値を返した。**NULL** 値の処理方法が一貫していなかった。不正確な統計によって、**MAX_JOIN_SIZE** 設定と組み合わせたとき、擬陽性となる場合があった。これは、クエリで実際にはレポートされるとおりの数の行が調査されなかったためである (Bug #30423)。
- **パーティショニング**: **KEY** でテーブルをパーティショニングするとき、パーティショニングキーで同じカラムを複数回使用しようとする、[mysqld](#) がクラッシュしていた。このようなキーカラムの重複は現在、明示的に禁止され、適切なエラーで終了するようになっている (Bug #53354、Bug #57924)。
- **レプリケーション**: ステートメントベースのロギングフォーマットを使用するとき、失敗しなかったトランザクショナルテーブルに影響する [INSERT ON DUPLICATE KEY UPDATE](#) ステートメントおよび [INSERT IGNORE](#) ステートメントが、1 行も挿入しなかった場合にバイナリログに書き込まれなかった (ステートメントベースのロギングでは、正常に実行されたステートメントは、行に変更を加えるかどうかにかかわらず、すべてログに記録される必要がある) (Bug #59338、Bug #11766266)。
- **レプリケーション**: 以前は、[STOP SLAVE](#) はまずスレーブ I/O スレッドを停止してから、スレーブ SQL スレッドを停止していたため、SQL スレッドで実行されているトランザクションの一部のみを複製した後で I/O スレッドを停止することが可能であった。その場合、トランザクションを安全にロールバックできないと、SQL スレッドがハングする可能性があった。

現在、[STOP SLAVE](#) はまずスレーブ SQL スレッドを停止してから I/O スレッドを停止するようになったので、SQL スレッドで実行されているトランザクションにイベントが残っていれば I/O スレッドがそれをフェッチすることが保証される。したがって、SQL スレッドはトランザクションを安全にロールバックできない場合でも、トランザクションを終了できるようになっている (Bug #58546、Bug #11765563)。

- 次の形のクエリで不正な結果が返され、結果セットにおける `col_name` の値が完全に `NULL` 値に置き換えられていた。

```
SELECT DISTINCT col_name ... ORDER BY col_name DESC;
```

(Bug #59308、Bug #11766241)

- `DELETE` または `UPDATE` ステートメントは、`DATE` または `DATETIME` 値で年や月を使うか、日の部分をゼロにすると失敗する可能性があった (Bug #59173)。
- `LIKE` 演算子の `ESCAPE` 句で使用できるのは、実行時に定数に評価される式のみだが、集計関数が拒否されていなかった (Bug #59149、Bug #11766110)。
- Valgrind によって検出されるメモリリークは、場合によって不正なクエリ結果の原因となっていたが、修正された (Bug #59110、Bug #11766075)。
- `mysqslap` が `mysql_store_result()` からの `NULL` の戻りチェックに失敗し、結果セットを処理しようとしてクラッシュしていた (Bug #59109、Bug #11766074)。
- デバッグビルドでは、`SUBSTRING_INDEX(FORMAT(...), FORMAT(...))` が原因でサーバがクラッシュする可能性があった (Bug #58371、Bug #11765406)。
- `--sleep` および `--count` オプションを指定して `mysqladmin` を実行すると、指定されたコマンドを実行して無限ループになっていた (Bug #58221、Bug #11765270)。
- 文字列を操作する一部の SQL 関数は、不変の空文字列を含む共有文字列オブジェクトを使用する。このオブジェクトを SQL 関数 `SUBSTRING_INDEX()` で使用すると、1つの引数のデータタイプが誤っている場合に空の文字列が返される。その後この空の文字列を SQL 関数 `INSERT()` によって変更すると、未定義の動作が続いた (Bug #58165、Bug #11765225)。
- ネストした正規表現を解析すると再帰状態になり、スタックオーバーフローでクラッシュする可能性があった (Bug #58026、Bug #11765099)。
- 標準入力ディレクトリの場合、`mysql` クライアントが無限ループになっていた (Bug #57450、Bug #11764598)。
- 式 `const1 BETWEEN const2 AND field` が不正に最適化され、不正な結果になっていた (Bug #57030、Bug #11764215)。
- RPM インストールスクリプトの一部はデータディレクトリにハードコードされた値を使用していたため、ユーザが標準以外のデータディレクトリ位置を指定した場合にはインストールが失敗することがあった。PID ファイル名など他の構成値でもこれは同様だった (Bug #56581、Bug #11763817)。
- FreeBSD と OpenBSD で、サーバによるシステム日付の範囲チェックが誤っていたため、正しい値が拒否されていた (Bug #55755、Bug #11763089)。

- [ExtractValue\(\)](#) または [UpdateXML\(\)](#) を使用するとき、読み込まれる XML に不完全な XML コメントが含まれていた場合、MySQL は処理中に XML 文字列の末尾を超えて読み込みを行うため、サーバがクラッシュしていた (Bug #44332、Bug #11752979)。

※本翻訳は、理解のための便宜的な訳文として、オラクルが著作権等を保有する英語原文を NRI の責任において翻訳したものであり、変更情報の正本は英語文です。また、翻訳に誤訳等があったとしても、オラクルには一切の責任はありません。